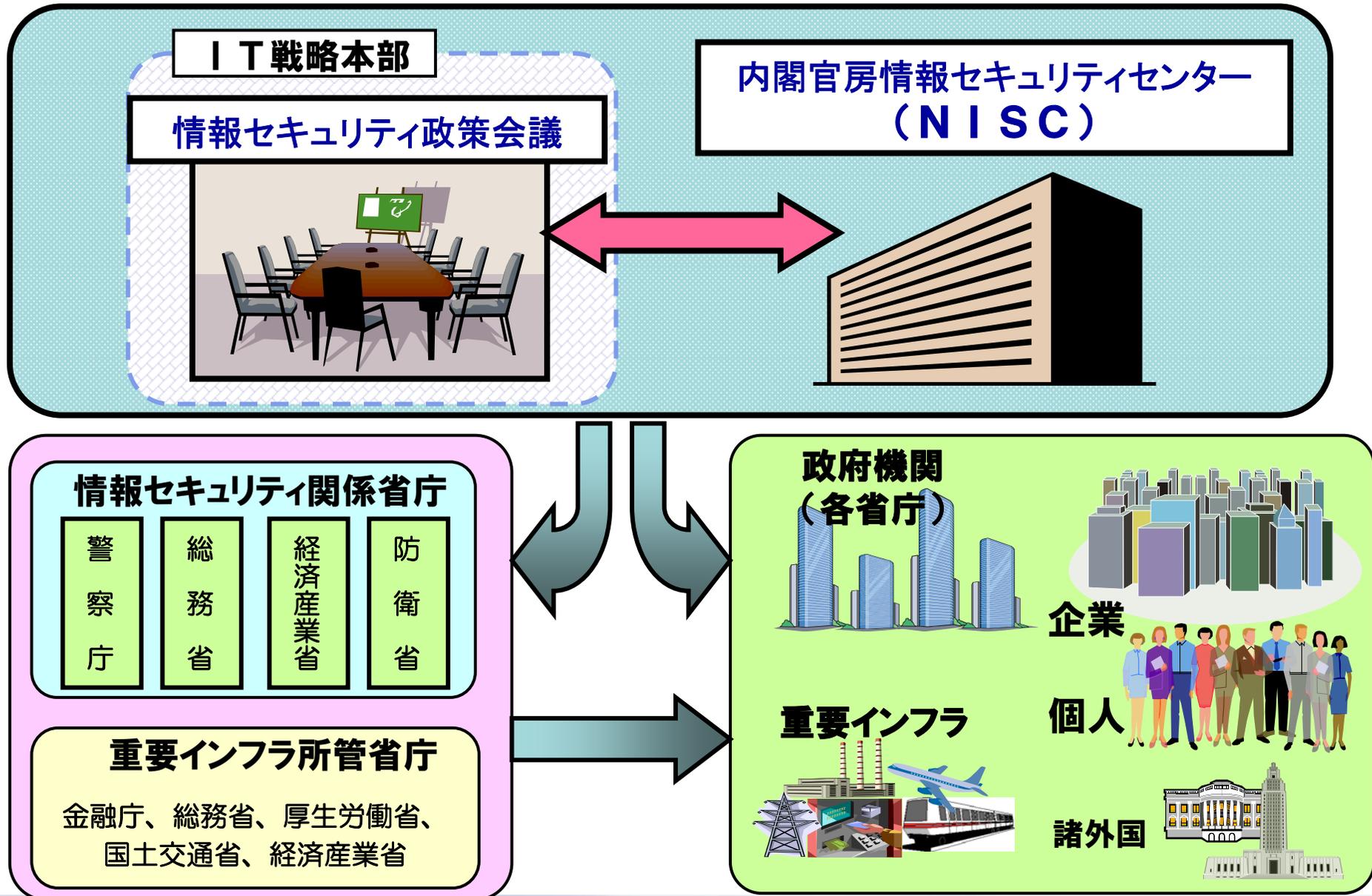




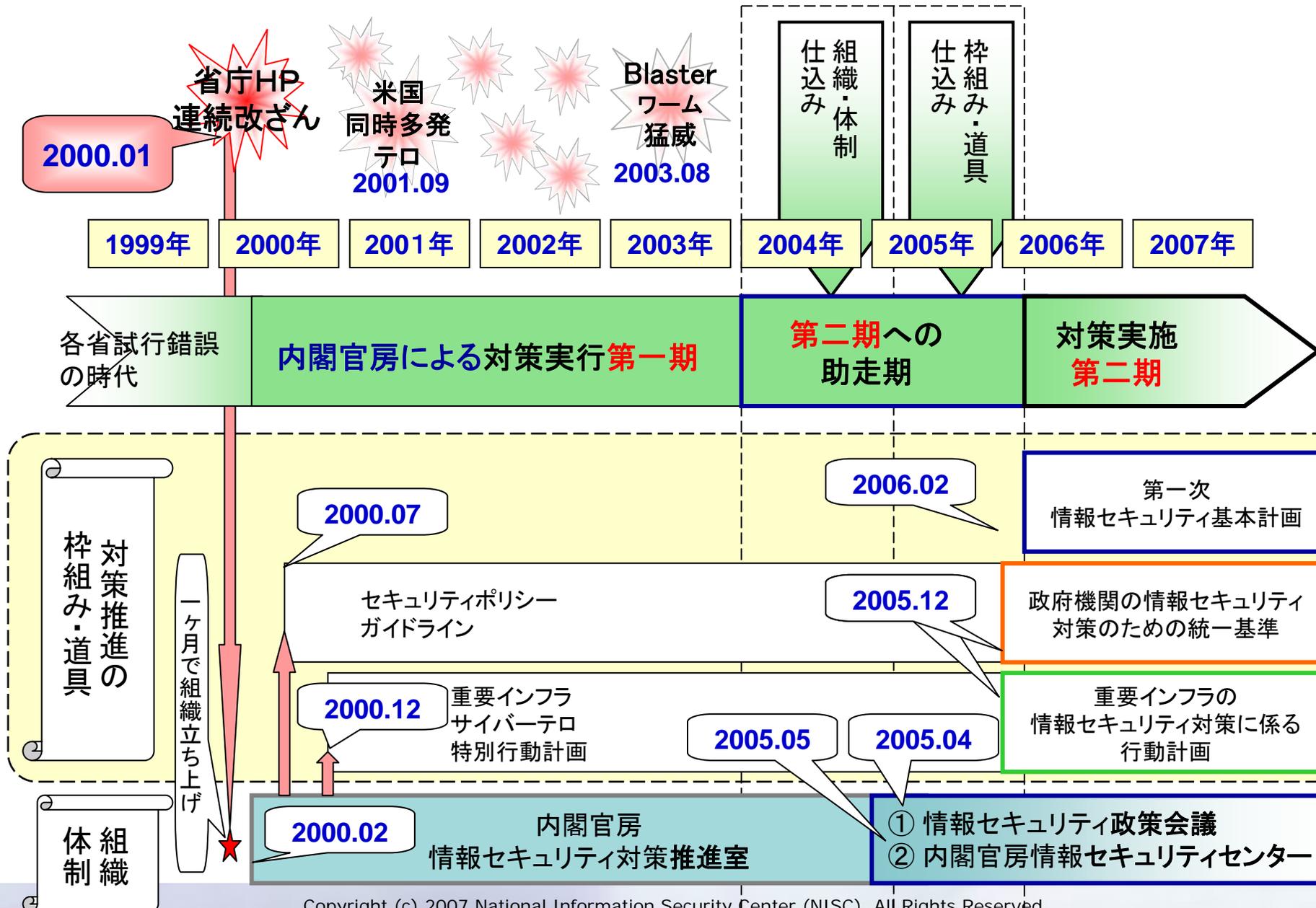
情報セキュリティ政策と技術開発戦略

2007年6月12日

内閣官房情報セキュリティセンター(NISC)



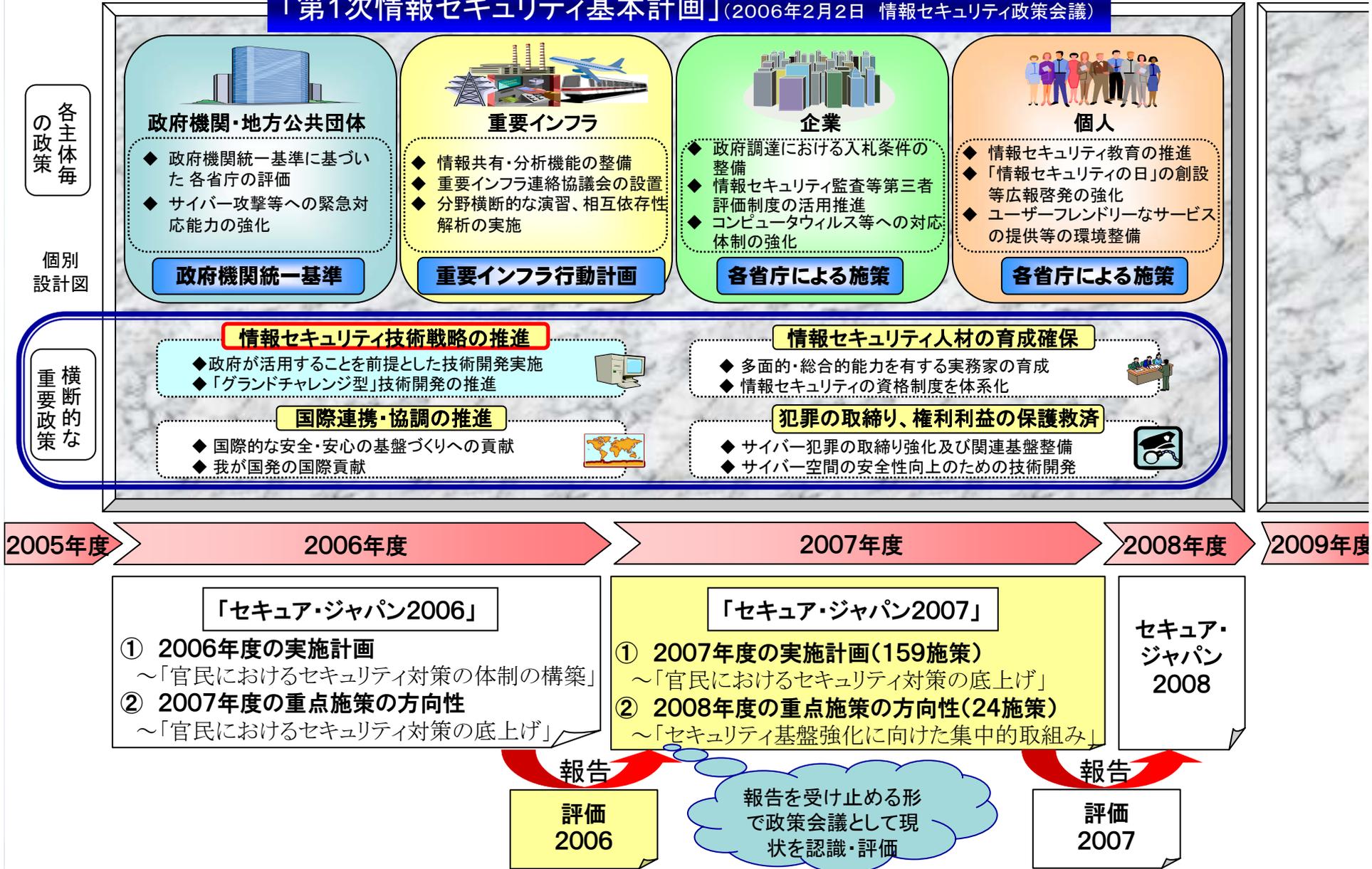
内閣官房における情報セキュリティ政策の流れ



「第1次情報セキュリティ基本計画」と「セキュア・ジャパン」 ～中長期的視点に基づく体系的な政策展開～



「第1次情報セキュリティ基本計画」(2006年2月2日 情報セキュリティ政策会議)



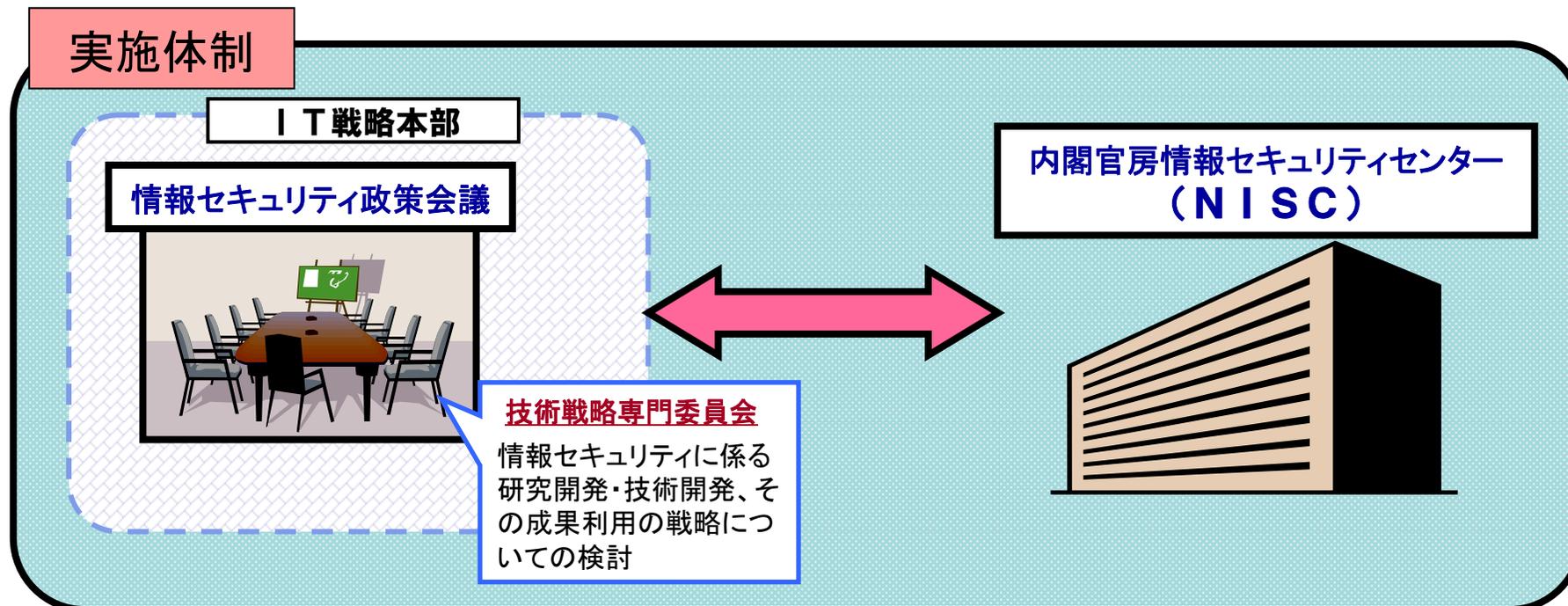
情報セキュリティ技術戦略の推進



【主な施策】

- ◆ 研究開発・技術開発の効率的な実施体制の構築
- ◆ 高セキュリティ機能を実現する次世代OS環境の開発実施等の情報セキュリティ技術開発の重点化と環境整備
- ◆ 長期的視野で抜本的な技術革新等の実現を目指す「グランドチャレンジ型」研究開発・技術開発の推進

実施体制



◆ 情報セキュリティ上の課題 (技術戦略専門委員会における論点)

高度情報通信ネットワークを安心して利用可能な環境となるための3条件を満足すること

条件① そもそも「高度情報通信ネットワーク(IT)が安全である」こと。

条件② 利用者が、「高度情報通信ネットワーク(IT)が安全である」と分かる(認識・体感できる)こと。

条件③ 万が一事故が起こった場合でも、その被害の局限化や救済等が図られるとともに業務の継続性が保たれること。

◆ 技術戦略の方向性

・技術は、条件①の「安全である」状態を極限まで高めることに利用され、

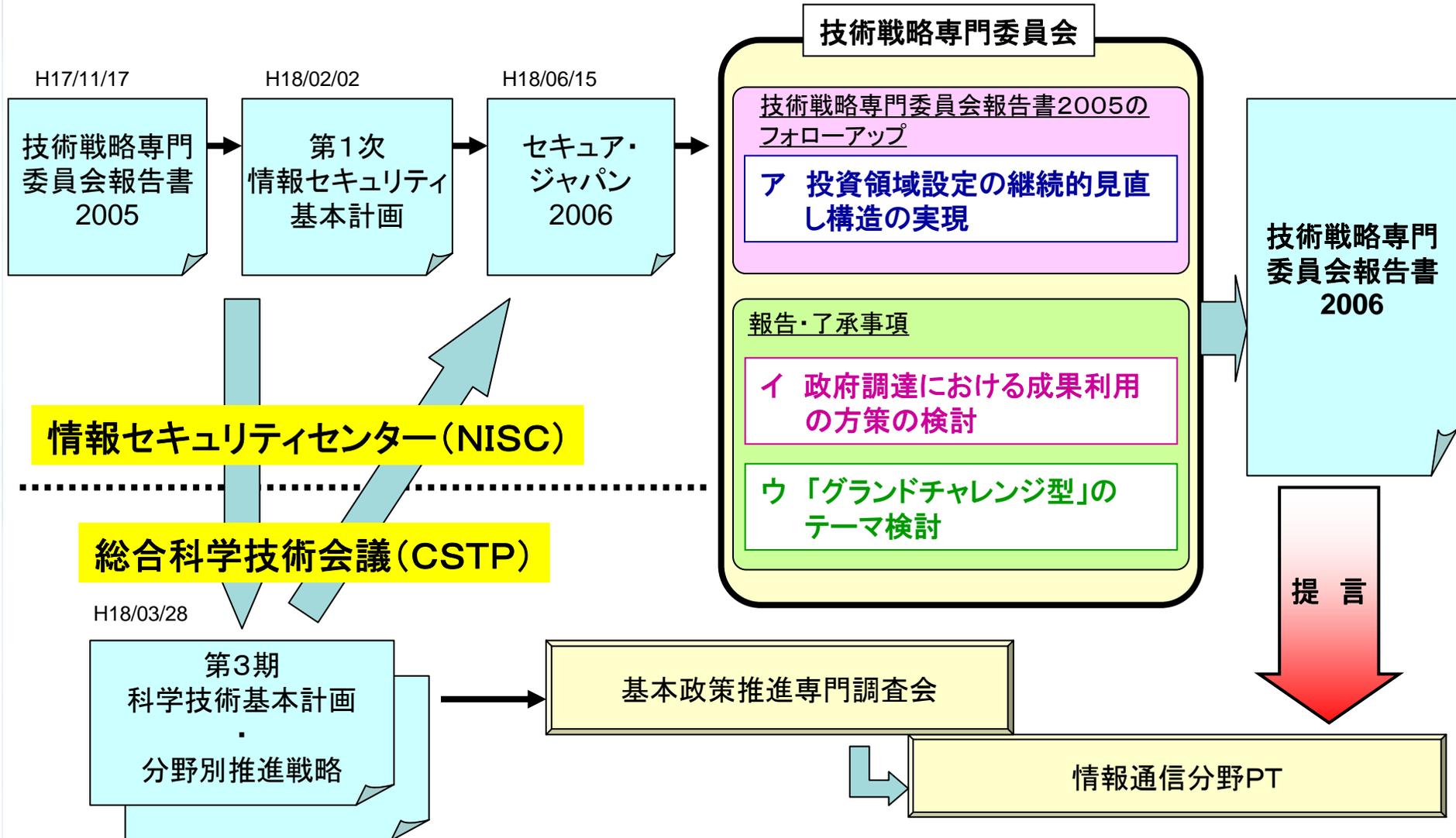
・条件②の「利用者が分かる」ようにするという要請に応えるために活用される。

このためには、情報セキュリティ技術の高度化を図ると同時に、**開発された情報セキュリティ技術が実環境で効果的、効率的に運用されるため組織・人間系の管理手法の高度化**の両面からの取組みが必要。

◆ 成果と今後の取組み

各府省庁によって推進される個別の施策も含めて報告書としてまとめ、報告書の提言は総合科学技術会議による第3期基本計画分野別推進戦略の情報通信分野にも反映された。2007年度はこれらをふまえ、重点化分野の見直しなどを推進する。

技術戦略専門委員会の活動経緯



「技術戦略専門委員会報告書」(2005. 11. 17)

- ① 実施状況の把握及び継続的な見直しの実施の検討
- ② 投資効果に係る継続的評価プロセスの導入
- ③ 政府調達における成果利用の方策の検討
- ④ 中長期的目標に対する研究開発・技術開発の促進
- ⑤ 短期的目標設定のなされている研究開発・技術開発の投資バランスの改善検討
- ⑥ 萌芽的研究開発に係る基本方針等の策定
- ⑦ 「グランドチャレンジ型」のテーマ検討

報告書2006での検討状況

ア 投資領域設定の継続的見直し構造の実現

- ・ IT強化直結型研究への重点化（次世代ネットワーク基盤に関する研究、安全なシステムアーキテクチャに係る研究等）
- ・ 萌芽的研究への投資強化（デジタルフォレンジックに係る研究、情報の長期間保存技術に関する研究等）
- ・ 基礎的研究領域に対する投資の充実・強化

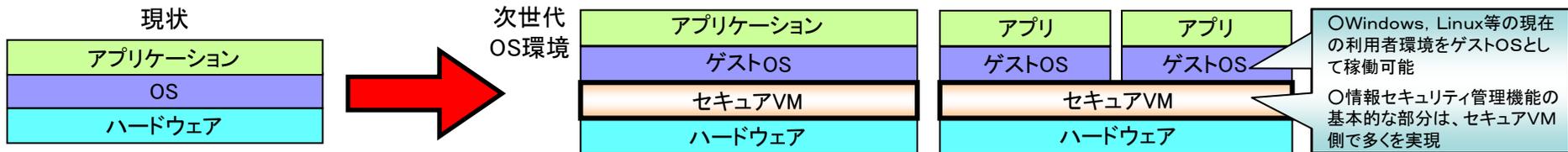
イ 政府調達における成果利用の方策の検討

- ・ 研究開発・技術開発における成果を、調達を通じ、直接政府が活用するための方策としてガイドラインを策定する。
- ・ 具体的なガイドラインの策定に際しては、内閣官房情報セキュリティセンターが、関係府省庁と連携し、2007年度にその策定作業に着手する。

ウ 「グランドチャレンジ型」のテーマ検討

- ・ 検討の方向性を記述する。

高セキュリティ機能を実現する次世代OS環境への移行



セキュリティ機能を組み込んだ仮想機械により既存のOS環境ごと制御

